

看護業務の効率化

試行支援(コンサルテーション)事業

医療法人 三星会

茨城リハビリテーション病院

選択した取組(2019年度受賞)

看護記録に要する時間削減の効率化への取り組み

－記録内容の標準化とリアルタイム記録に焦点を当てて－

〈今年度取組を実施するための支援を希望〉

支援施設 県立広島病院

試行期間 2020/9/1～2021/1/31

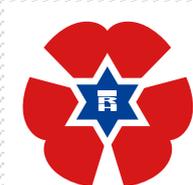
プレゼン動画視聴はこちら ▶



Continuum of care



医療法人
三星会 茨城リハビリテーション病院



所在地 茨城県守谷市

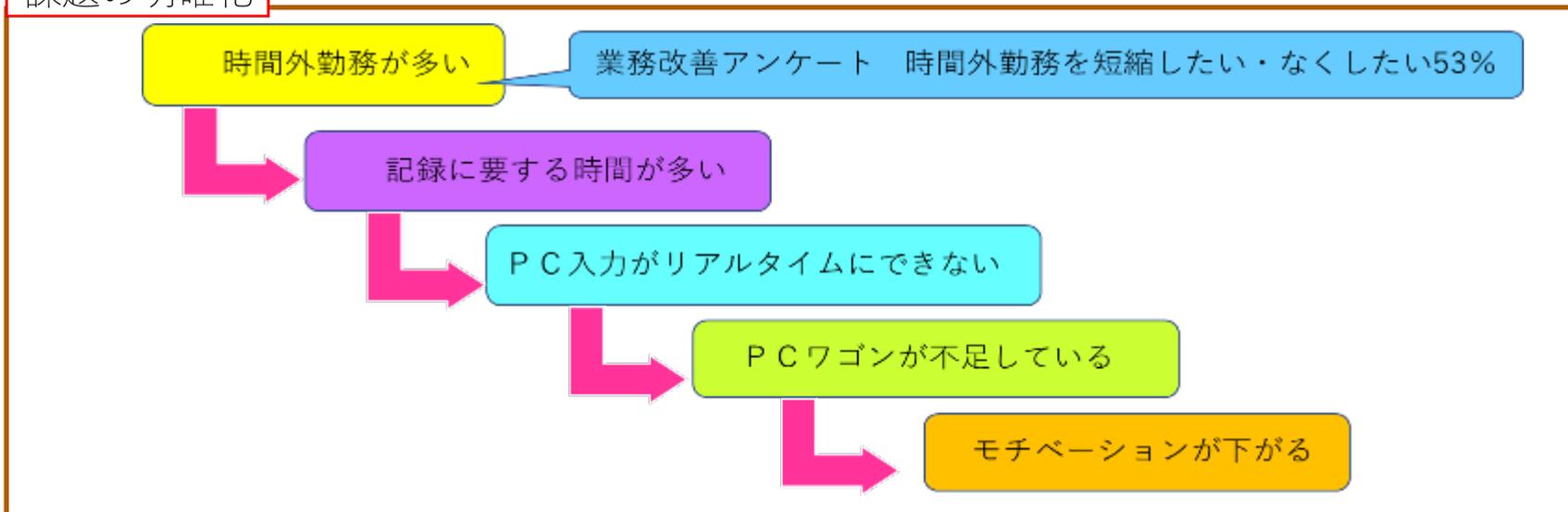
従業員数 350名 うち看護職員数：110名(2020年12月1日現在)

病床数 178床 (回復期119床、障害者59床)

入院基本料看護配置 回復期リハビリテーション病棟入院料 1
障害者施設等一般病棟10：1

- 現状と課題**
- 2020年3月の業務量調査の結果、間接看護業務の中でも特に看護記録に要した時間が多く、間接看護業務の67%を占めた。一方で直接看護業務にかかる時間が少ないことが判明した。
 - 記録業務にかかる時間を短縮し、直接看護の増加に取り組みたいと考えた。

課題の明確化



目標

- 2020年度業務改善活動目標
直接看護時間の確保 時間外勤務の短縮
- 試行期間の目標
2021年1月に看護記録に係る時間が減少、業務量調査で直接看護の業務量が増加

試行計画

2020年 8月	スタッフ面談の実施	<ul style="list-style-type: none">● 看護部長が全看護職に面接を実施。記録業務に時間がかかっていることについて、多数の意見や思いを把握。
9月	活動について院内周知 ワーキンググループ発足	<ul style="list-style-type: none">● 師長会で試行事業を説明し、参加への同意を得る。● 経営会議で三役に試行事業へ参加することを説明し、許諾を得る。● 記録委員会、業務委員会、主任会議（看護部委員会）、関連部署にも説明し、協力を依頼。● ワーキンググループ発足(看護部長、副看護部長、病棟所属長4名、計6名)。下部組織として主任会(主任・副主任計7名)を作る。
10月	記録業務の整理・ テンプレート作成 リアルタイム記録開始	<ul style="list-style-type: none">● 電子カルテ用ワゴンの購入。（モデル病棟に2台づつ）● 記録委員会へテンプレート作成を依頼。看護記録の重複の調査、リアルタイム記録調査を行う。看護記録記載基準を改訂した。● モデル病棟を決定し、ワゴンを利用したリアルタイム記録を開始。
12月	テンプレートを 使用した入力の開始	<ul style="list-style-type: none">● 電子カルテに定型文を挿入する作業を行い、12月末より全病棟でテンプレートを使用した入力を開始した。(排泄、褥瘡、検査)
2021年 1月	業務量調査の実施	<ul style="list-style-type: none">● 業務量調査の実施・集計。

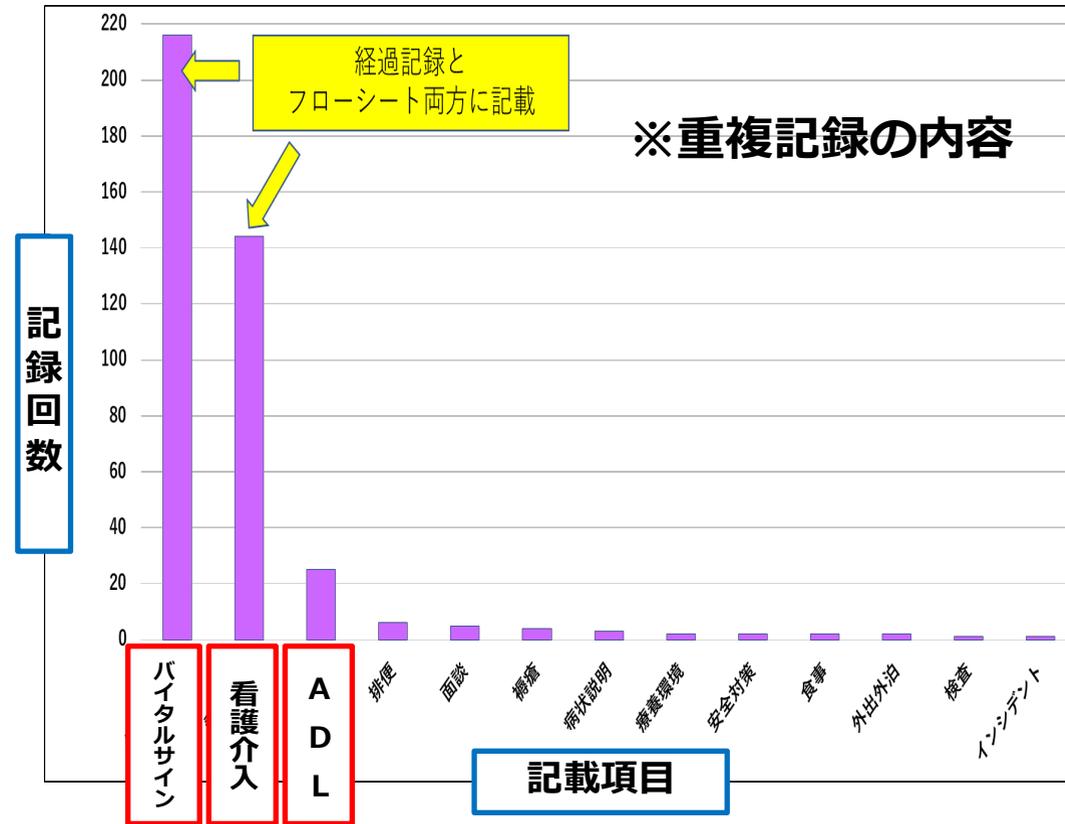
1. 電子カルテのセット展開に向けた取組

● モデル病棟の選定

回復期リハビリ病棟をモデル病棟に選定。リハビリに直接関わりたいという看護師の思いを叶えるため、また、業務委員会の「直接ケアを行いたい」との目標に合致するため選定した。

● 看護記録の整理

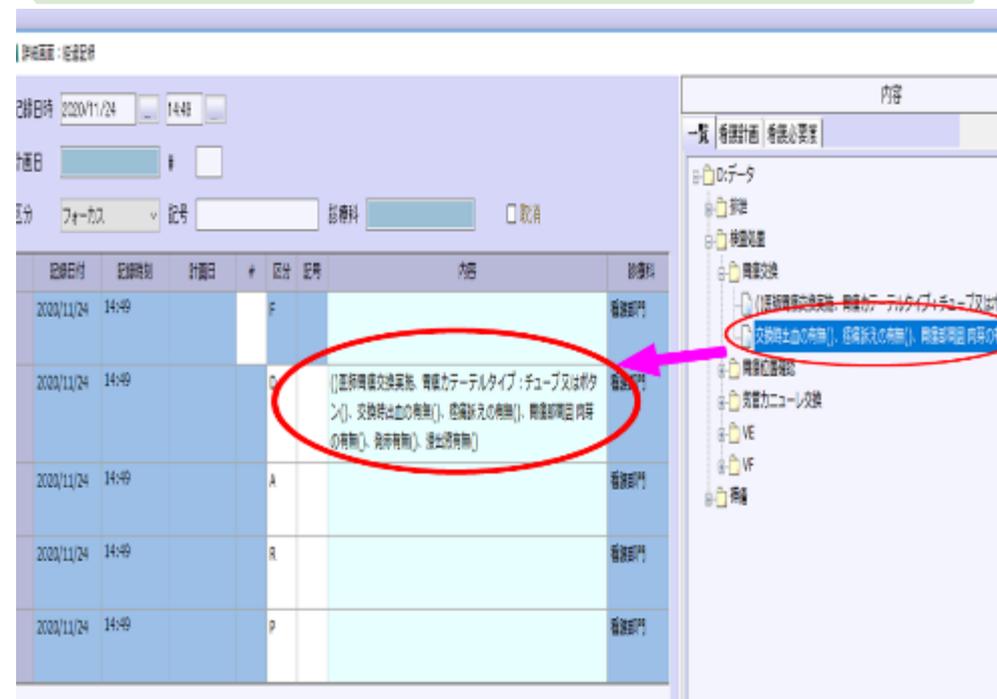
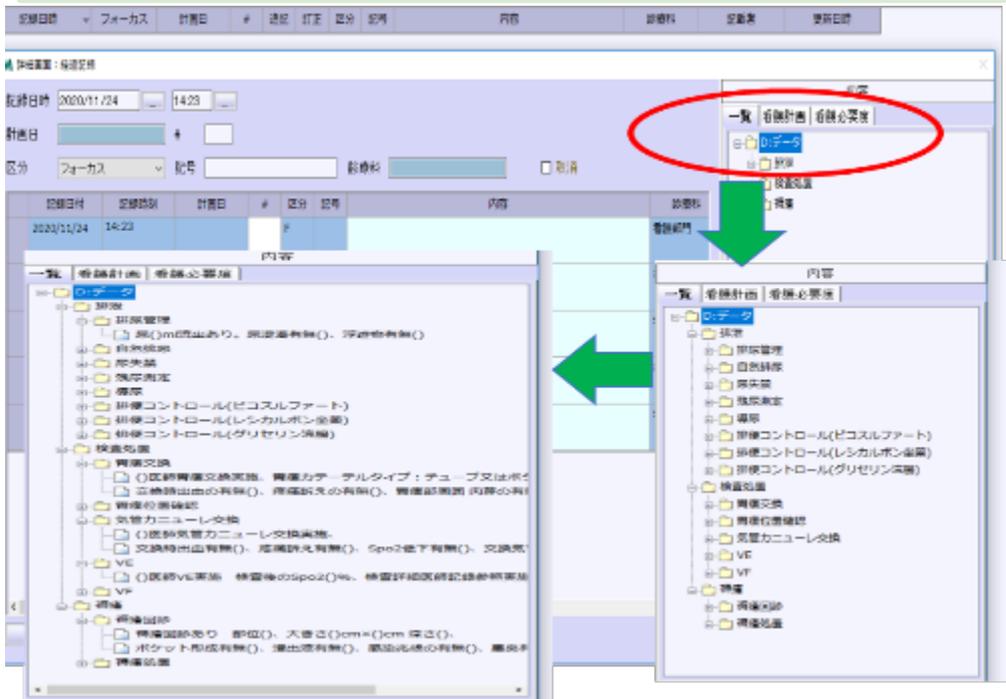
- ・ 助言を受けて、障害者病棟と回復期病棟には人員配置や看護業務の流れに違いがあることを踏まえ、回復期リハビリ病棟に焦点化してデータ分析を実施した。
- ・ 重複記録の内容の整理を行った（右図）
経過記録・フローシートの両方に重複して記載している記録を把握した結果、「バイタルサイン」・「看護介入」の項目が重複していることが明らかとなったため、看護記録の記載規準の見直しを実施した。
- ・ リハビリ科との重複記録はさほど無かった。



● 定型文の作成：排泄、褥瘡、検査の3点について作成

右の「一覧」タブの「D:データ」から内容を選択する。
現時点で作成しているのは、「排泄」「検査処置」
「褥瘡」で全15項目。該当のものを選択する。

項目によっては定型文が2つ入っている為、2つ
クリックし文章をデータ欄に挿入する。
()内の内容を手入力する。



Point!

支援施設からの助言

- ✓ 今後、頻用項目が出てくること等により、使用実績に応じた項目の整理を見据えることも必要。正しい情報を正しいオーダーで正確な場所に記載することが、医療安全にもつながる。

2. リアルタイム記録の実施にむけた取組

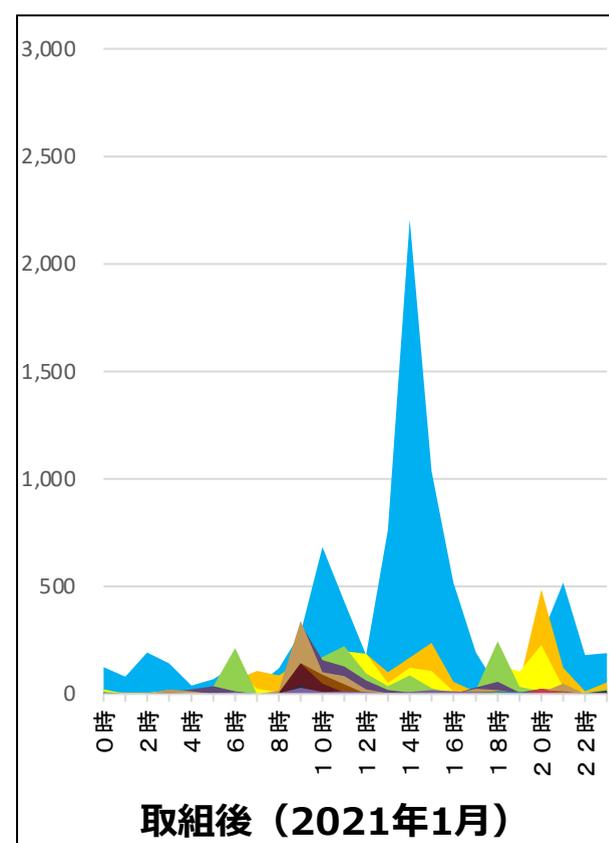
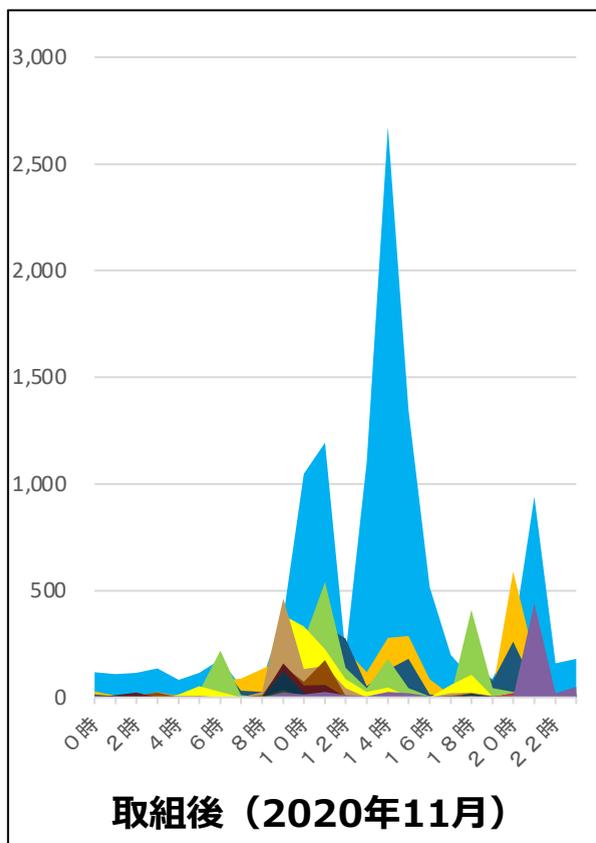
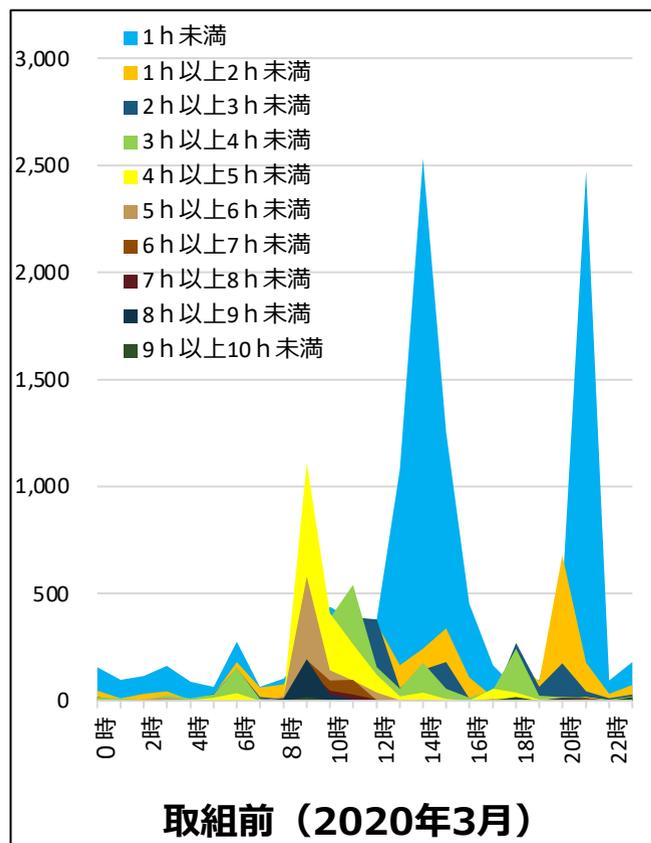
- 業務量調査の結果、時間外勤務の要因の多くは「看護記録」であり、リアルタイム記録が実施できていないことが判明した。
- ワゴンを使用しノートパソコンを持ち歩くことで、リアルタイム記録を開始した。
- 従来、ナースステーションに戻ってから記録を行う習慣があった。また、多職種も同じパソコンを使用するため、タイムリーに入力できない状況があった。
- パソコンを持ち運ぶ用のワゴンを購入。午前中からベッドサイドで記録できるようにした。



取組の成果・効果

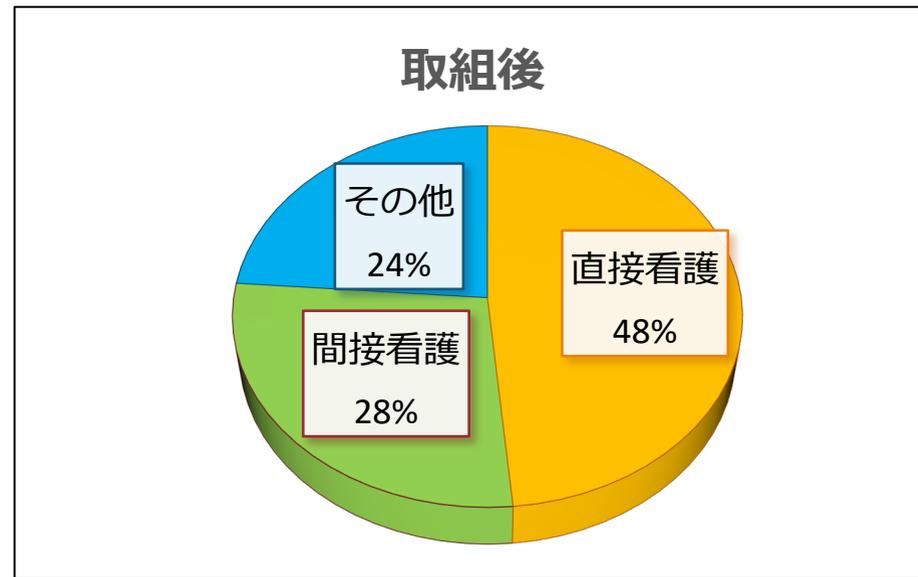
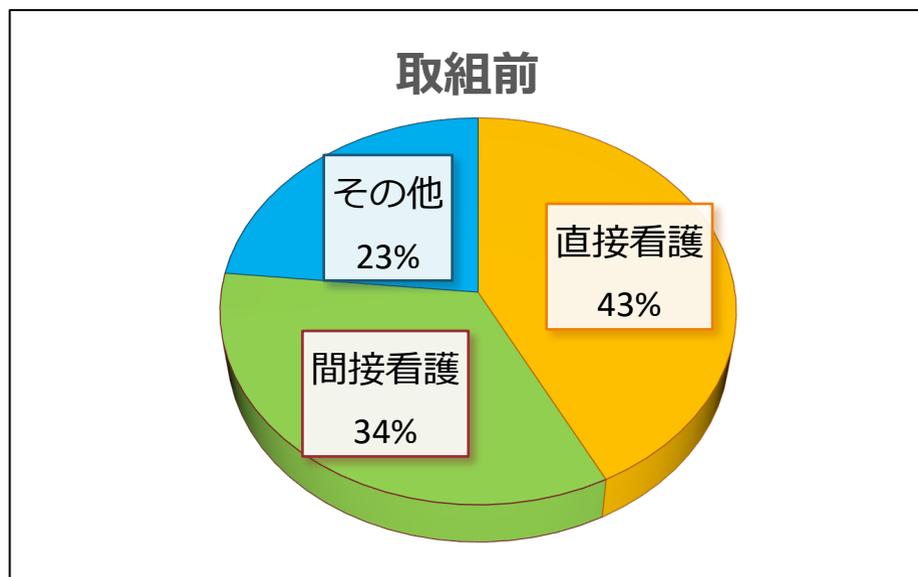
- リアルタイム記録が増加した。特に看護記録（ブルーの山）の記載状況で、後回しにされていた午前中の看護記録が、午後ではなく午前中にリアルタイム記録されるようになった。

リアルタイム記録の推移



取組の成果・効果

- 業務量調査の結果、取組前後で直接看護時間が43%から48%へ増加、間接看護時間が34%から28%へ減少した。



- 定形文の使用により、タイピングの苦手な看護師も数値などの少ない項目のみを入力すればよいため記録時間を短縮できて好評である。また、看護師の個人差による入力漏れがなくなった。
- 記録部分の重複が判り、記載内容を基準化したため重複が減少し記録時間を短縮できた。

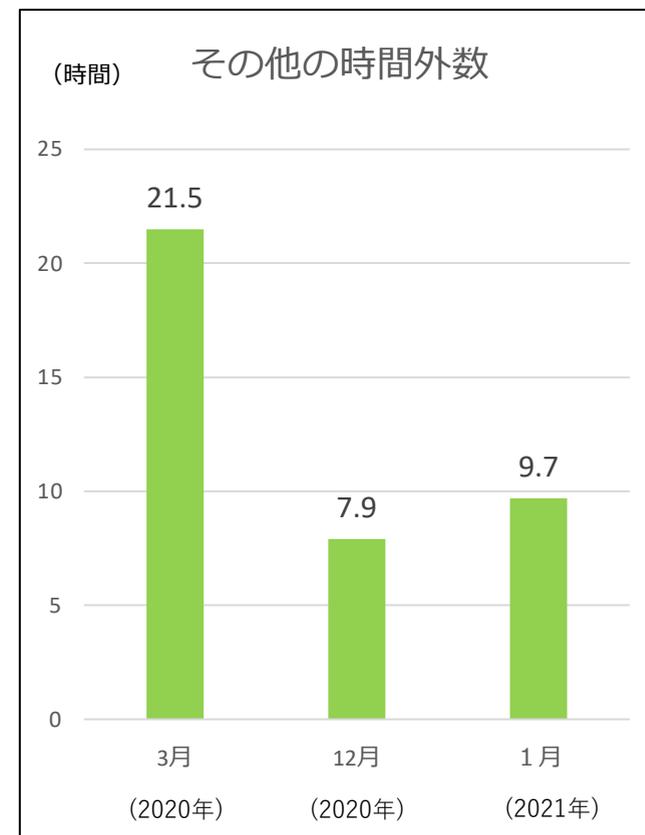
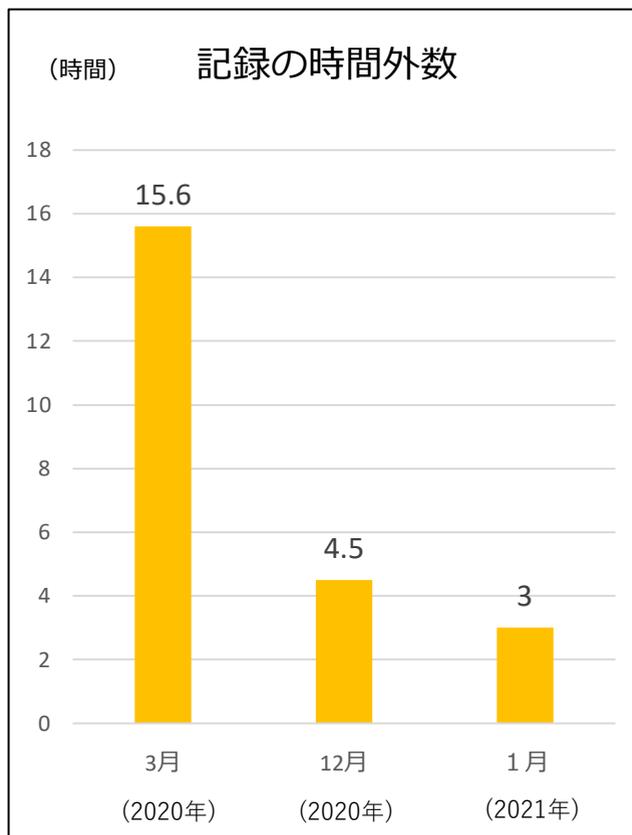
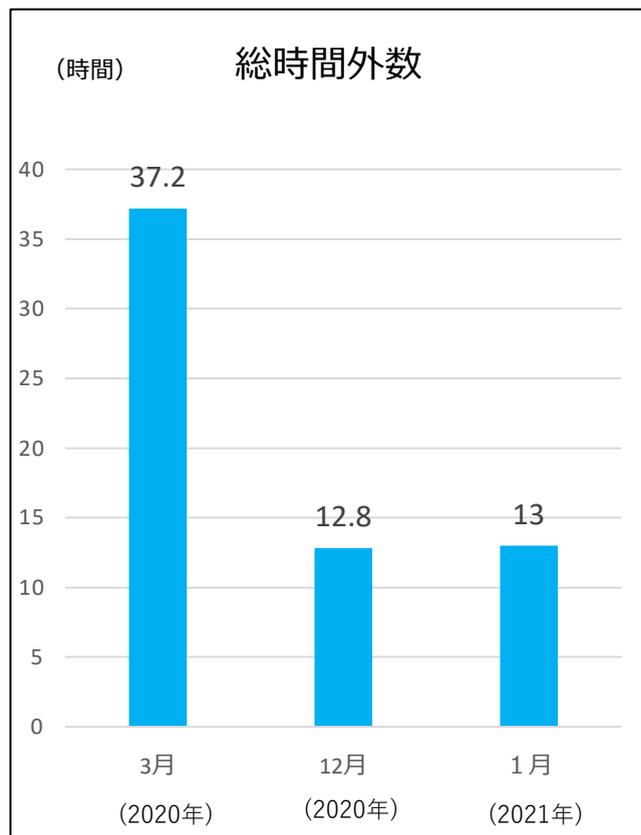
Point!

支援施設からの助言

- ✓ 直接看護時間の増加にむけて、今後は「その他」項目について、削減可能な内容の検討等を行うことが必要。

取組の成果・効果

- 時間外勤務時間(記録業務による時間外勤務の申請)が減少した。
- 以下のグラフのように「総時間外数」「記録時間外合計」「その他の時間外」の3項目において減少傾向にある。



■ 目標に対する評価

● 看護記録に係る時間の変化

4病棟での時間外勤務時間を合計した総時間数は、2020年3月は37.2時間であったが、2021年1月は13時間に減少した。

同じく、看護記録による時間外勤務の総時間数は、2020年3月は15.6時間であったが、2021年1月は9.7時間に減少した。

● 直接看護時間の変化

2020年3月の業務量調査では直接看護が42.5%であったが、2021年1月には48.4%に増加した。

試行に取組んだことへの、スタッフの反応

- ✓ ベッドサイドで患者さんの顔を見ながら記録ができるようになった。（スタッフ）
- ✓ 看護記録がタイムリーにみられるようになった。（他職種）
- ✓ スタッフのベッドサイドにいる時間が増えた。（管理者）

- 試行期間内では取り組むことができなかった、特に入院時の記録業務の改善に取り組みたい。
- テンプレートの定形文を増やしていき、特に回復期リハビリ病棟での記録に関する項目を新規作成したい。
- 全病棟でリアルタイム記録がスムーズに進むように環境を整備するため、今回PCワゴンを増やしたモデル病棟と、増やしていない病棟間の差をなくすことや、運用上の問題を洗い出し、改善活動を継続したい。
- スタッフから自発的に、今後は医師の回診に同行し、同時に記録業務を行いたい等の声が出ている。リアルタイム記録のさらなる推進を図るため、新たなプロジェクトチームを立ち上げて取り組みたい。今回は管理者が中心となって取り組んだため、スタッフを巻き込み展開していきたい。

リアルタイム記録を始めるにあたって

- ✓ 現状分析をしっかりと行い、何から始めるかをしっかりと決めてからスタートするとよい。
- ✓ 現場スタッフ、師長などと意見交換を繰り返し、共通認識を持つことでブレない取組ができる。